



新戦略計画の理解と実践を

南園 義一 (防府 RC)

経歴 国際ロータリー第 2710 地区

パストガバナー

2004 ~ 2006 年 RI 理事

2007 ~ 2013 年 RI 戦略計画委員

近年、ロータリーは、ロータリーの現状を認識・把握するとともに、将来への方向性を見出し、発展するために DLP (地区リーダーシップ・プラン) CLP (クラブリーダーシップ・プラン) をはじめとして、「RI 戦略計画」や財団の「未来の夢計画」を推進しています。

戦略計画については、2004 年の規定審議会において RI 戦略計画委員会の設立を決議し、その後ロータリーの現状や世論を調査して、2007 年には第 1 回目の RI 戦略計画を発表しました。そして 3 年後の 2010 年には、更に改訂された RI 戦略計画を発表しました。

RI の戦略計画は、ロータリー活動の基本理念である中核的価値観と具体的な実践目標である 3 つの要点から成り立っています。ロータリー活動における「理念と実践」はとても重要な要素です。理念のない実践は、活動の価値がなく、実践しない理念だけの活動は空虚です。理想と実践の調和を心がけましょう。

2010 年の RI 戦略計画の理念には「奉仕」、「親睦」、「多様性」、「高潔性」、「リーダーシップ」という中核的価値観が示されています。いずれもロータリー創始以来、変わることのない理念を包含したものであり、変えてはならないものです。私たちは、この中核的価値観の意味と内容をよく理解し、ロータリー活動の基本的理念として活動を進めたいと思います。

また、具体的な活動の実践活動の目標としては「クラブのサポートと強化」と「人道的奉仕の重点化と増加」そして「公共イメージの認知度の向上」の 3 項目の活動が示されています。この 3 大要点は RI が行った世論調査をもとに、全世界のロータリアンの意見が基本になっています。

ロータリー活動の原点は「クラブの活動」であることは言うまでもありません。ロータリーは 120 万のロータリアンと 3 万 4 千のクラブから成り立っています。全世界のクラブが戦略計画の中核的価値観のもとに自主的に積極的な活動を推進すべきでしょう。また、人道的奉仕活動として 6 つの重点項目が挙げられており、ポリオ撲滅を最優先活動として、地域社会のニーズに応じた活動や青少年活動などの展開が望まれています。

そして、この様なロータリー活動の成果をもっと、世

界中の各社会に認知してもらい、ロータリーの目的と活動の成果を高揚することは 120 万ロータリアンの希望です。今、私たちの最大の目標はロータリーの活動が広く認知され、理解して頂くことです。そのためにロータリーのイメージとブランドの認知を調和させること、またロータリーの特徴である職業奉仕と中核的価値観をよく理解してもらおうということ等が強調されています。

そして、ロータリーは、従来のコミュニケーション対策を見直し、最近の社会や世代の変化に適應して、新しいソーシャル・ネットワークを開発することになりました。即ち、長期的戦略計画として、大規模なコミュニケーション戦略の必要性、およびソーシャル・ネットワーキングの活用を立案し、短期的な戦略計画としてロータリー・イメージの統一強化、ロータリーのロゴの改善、ブランドの再生等を実施されています。

ロータリーは、3 年毎に世界のロータリアンに「ロータリーの未来に関する意見」を調査していますが、2012 年度の調査では、95% の回答者が現在の戦略計画の優先項目と 16 の実践目標を強く支持するという結果が出ました。RI 理事会は、この結果を勘案し、ロータリーブランディングの効果が出るまで、次の新戦略計画も 2010 年度の戦略計画を継続していくことになりました。

現在、新戦略計画は次第に進捗した状況を示しています。「ロータリー・ショーケース」はロータリー内外の人々に、ロータリアンが行うプロジェクトを容易に、素早く紹介することを可能にし、「ロータリー・セントラル」はクラブが目標を設定し、進捗状況を記録することのできる、新しいオンラインツールです。新戦略計画は、実践活動の段階です。地区や各クラブでは RI 戦略計画スコアカード等を使ってクラブを強化し、奉仕活動の成果を上げ、ロータリー戦略計画を実践することが最も肝要だと思います。

第 2780 地区の皆様におかれましては、新戦略計画を理解していただき、中核的価値観と 3 つの活動目標と 16 項目の実践計画を開始されますよう、心からご期待申し上げます。

南園パストガバナーとの 対談



いつも大変お世話になります。桜花の候、皆様にはますますご健勝の事と存じます。本年度、奉仕の実践と公共イメージ向上の推進をしてきました。南園義一第 2710 地区パストガバナー（元 RI 理事／元 RI 戦略計画委員）と対談をして、奉仕の実践と公共イメージについてお話を伺って参りました。

相澤ガバナー：新しい戦略計画はどのような点が変わったのでしょうか。

南園氏：内容は変わっていません。2010 年の戦略計画を基に、簡素化して効率よくもっと具体的に分かり易くなっています。実践へ繋がるように表現方法を変えたということです。3つの戦略的優先項目とその下の 16 の目標は全く同じで、変わっていません。

相澤ガバナー：中核となる価値観についてお考えをお聞かせください。

南園氏：ロータリーの奉仕は一体的なもので、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕、新世代奉仕、それぞれを断片的に捉えるのではなく、又一面的に考えるのではなく、包括的なものとして考えてほしい。ロータリーの奉仕は、総合的で柔軟、且つ機能的なものとして捉え、「ロータリーの目的」の最後にある四つの項目の後段にある「等しく重要な意味を持ち、また同時に行動を起こさなければならない」とありますように、色々な奉仕活動が重なり合っ

て一体として考え、実践に移していくということです。奉仕は、Avenue - クロスロードのようなものです。いくつかの奉仕活動が交わるところが奉仕で、立体的に機能的に考えることが大事なのです。奉仕の順序にこだわる必要もなく、一面的でもありません。クロスロードになっているところが一番の焦点であると考えることが大切で、総合的に機能的に、矮小化させないように実践に結びつけます。それは、I serve であっても We serve であってもいいのです。

相澤ガバナー：中核となる価値観にある親睦をどのようにお考えですか。

南園氏：奉仕の中に親睦が生まれてきます。又、親睦の中から奉仕の概念が生まれてきます。両方が相まってお互いに活動の中から人間関係が良くなっていきます。その人間関係が良くなれば、お互いの相互作用が出てきて、より良い奉仕活動をするようになり、良いロータリアンが生まれてきます。そう理解をしてほしいですね。

職業奉仕をコミュニケーションとして捉えたとイメージしやすいですね。皆さんは、ご自身の職業を通じて社

会と関わっておられます。そして社会にある職業を務めさせてもらっています。この事が重要で、社会とコミュニケーションを大事にした職業人たちは、社会との関わり合いをどう捉え、また社会に還元して行くかを考え、実践していきます。そうしますと、社会から得られる尊敬や信頼が自分に返ってきます。そういった信頼感が、ロータリアンが尊敬される所以となり、結果的に自分の利益にもつながっていくのです。コミュニケーションとは、分かち合い・持ち合いでもあるのです。

相澤ガバナー：奉仕の理想とはなんのでしょうか。

南園氏：理想は、夢です。理念は、中核的価値観であり普遍的なものです。

ロータリーの目的にある 3つの理想とは、「職業奉仕の独自性」、「人道的奉仕活動」、「平和」です。

方法として戦略計画の 16 の目標があり、奉仕の概念が生まれてきます。

相澤ガバナー：私は今年度奉仕の実践と公共イメージ向上を推進してきました。実践をする姿を社会に正しく理解してもらって、公共イメージの向上を図りたいと思ってきました。

南園氏：ネットワークは、親睦の本質です。ネットワークを機能的に連携させ、ネットワークを広げて、社会や世界にどう影響を与えるか、そのものの評価が広報となります。広報を方法論だけで捉えてしまうと誤解を生んでしまいかねません。奉仕を実践することによってロータリーとして、国際社会、地域社会が評価を受ければ、ロータリーに対する公共的なイメージは向上していくこととなります。

(対談より抜粋)

本年度は奉仕の実践と公共イメージ向上を推進してまいりました。

今後とも皆様のなお一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。撲滅を最優先活動として、地域社会のニーズに応じた活動や青少年活動などの展開が望まれています。